

奨励賞



松本



高橋



長谷川



萩生田



南井



安田



安井

設計担当者

松本洋平

香山建築研究所、東京建築士会

共同設計者

高橋愛子 | 香山建築研究所
東京建築士会

長谷川祥久 | 香山建築研究所
東京建築士会

萩生田秀之 | (株)KAP
東京建築士会

南井克夫 | (株)環境エンジニアリング
東京建築士会

安田哲也 | NPO法人サウンドウッズ
兵庫県建築士会

安井昇 | 桜設計集団一級建築士事務所
東京建築士会

庁舎／京都府船井郡京丹波町

京丹波町役場 新庁舎

構造 | 木造(軸組工法)および
鉄筋コンクリート造
一部鉄骨造

階数 | 地上2階

敷地面積 | 18,822.75㎡

建築面積 | 2,784.83㎡

延べ面積 | 4,923.21㎡

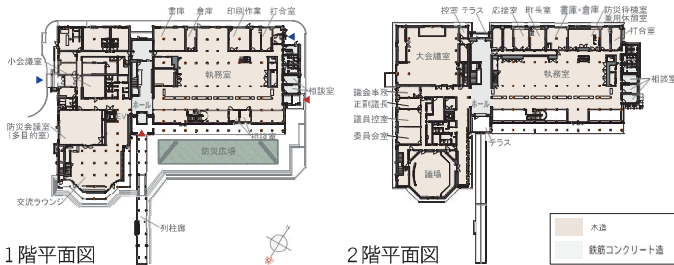
竣工 | 令和3年8月31日



1



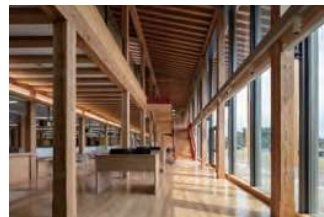
2



1階平面図

2階平面図

- 1 外観。南東から望む
- 2 議場
- 3 執務棟 待合ロビー
- 4 議会棟 町民ラウンジ



3



4

選評

山合の山陰道を京丹波町に入っていくと、柔らかな表情の新庁舎が迎えてくれる。

京丹波は町面積の約83%を森林が占め古くから農林業が盛んで、その地産材を活用した準耐火(45分燃えしろ設計)の大規模木造庁舎である。RC造のエントランスホールを区画棟として執務棟と議会棟に分けたうえでスプリンクラーを設置して、木架構空間と木内装を最大限に展開している。

執務棟は柱・梁・垂木すべての木架構が表して、柱が空間をうまく規定しながらも壁が

少なく開放的で、高窓から屋根裏の木架構を通して自然光が差し込む、木造ならではの温かみのある執務、町民対応空間となっている。議場の天井の意匠は工芸的でもあり、執務棟と同様天井の木格子越しに自然光が差し込むが、執務棟とは異なる繊細な表情を持っている。

柱の主材である240角材は、地元製材が活用できる120×240の平角組柱としている。2本の平角材を45mmの燃えしろ層にかからなように長ビスを斜めに深く打ち込み接合した

もので、構造試験と載荷加熱試験を行い、製作単価を検証したうえで新技術として採用している。木材調達から製材、技術開発そして建築表現と、まさにきめの細かい大規模木造建築への取り組みが印象的である。

数多くの配置案検討や設計段階での市民参加のワークショップの実施、地元産木材の活用など丁寧な設計プロセスが町のシンボルであり町民の集いの場、タウンホールとしての豊かなで優しい造形に結実している。

(菅 順二)